

日英の発想や文化的側面に焦点を当てた語彙指導

動物や色に関する表現を通して

金子 満香*・松谷 緑

Teaching Vocabulary Focusing on Cultural Aspects of English and Japanese

KANEKO Mika*, MATSUTANI Midori

(Received August 5, 2013)

キーワード：語彙学習、日英比較、異文化理解

はじめに

『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2008:6）では、外国語科の目標は次のように設定されている。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

英語を学ぶということには、近年重視されている英会話のように、コミュニケーションの道具としての英語を学ぶという実用的側面だけでなく、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め」とあるように、英語にまつわる文化的・社会的な背景、価値観、ものの見方といった文化的側面について学ぶことも含まれている。また、外国語科の目標の解説において、「そういったことを通して、同時に自分たちの言語や文化に対する理解が深まることが期待される。」とも述べられている。

林（2002:331-355）では、語彙の学習が異文化理解の糸口となりうるものであることが指摘されている。語彙の学習は、形と意味を覚えることにとどまらず、扱い方や工夫次第で「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め」るものとして機能しうるものである。

本稿では、中学校での授業中に出た生徒の疑問を元に、動物や色に関する語彙を通しての日英の発想や文化的側面に焦点を当てた実践について紹介する。

1. 実践にいたる経緯

かつて、筆者（金子）が担当していた中学3年生のクラスでの授業中、練習問題において、“A violet smells sweet.”という英文が出てきた際、生徒Aとの間で次のようなやりとりがあった。

生徒A：先生、怪しいときとかに日本語で「なんかにおう」って言うことがあるけど、smellもそういうふうに使われることってあるんですか。

教師：smellも疑わしい感じがするという意味で使われることがあります。たとえば、smell a ratという表現は「胡散臭く思う」とか「怪しい」といった意味で使われます。

生徒A：ふーん、そうなんじゃあ。でもなんでにおうとかsmellが怪しいって意味なんやろ？

教師：うーん…、においは人間にとっては危険を察知するための手段でもあるから、たとえば、食べ物が腐っ

*山口大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修

てないかとか食べられそうなものかとか確認する時ってにおいを嗅ぐことがあるよね。なんか変なおいがるってことは、危険そうとか何か様子がおかしいとかそういうことだと考えられるから、においが怪しいっていう意味で使われるのかもね。¹⁾ 話す言葉は違っても、人間の五感と同じだから、日本語のにおいも英語のsmellも怪しいっていう意味を持つようになったのかもね。

生徒A：じゃあ、なんで表現にratっていうねずみが使われるんですか？

教師：なんでやろうね…。うーん、ratが使われる理由はよく分からないけど、ratには「裏切り者」とか「密告者」とか「スパイ」っていう意味もあるよ。英語のratは卑怯とか不潔を連想させる動物なんだよ。²⁾

生徒A：そういえば、なんか日本語でも時代劇とかで、密談中に怪しい物音が聞こえたときとかに、「ねずみがおるな」とか言ったりするわあ。スパイしてるのがばれて。他にも動物が出てくる表現ってあるんですか？

教師：あるけど、それはまたの機会に紹介することにして、そろそろ練習問題に戻ろうね。

- 1) この見解はあくまでも筆者自身の見方である。身体的な知覚である嗅覚の「におう」が、「怪しい」へとメタファー的に展開していると考えて、認知的な側面からこのように説明した。
- 2) 動物を表す語は、その動物そのものだけでなく、何かを象徴するのに使われたり、何かを連想させたりすることがあることを知ってもらいたいと思い、このように述べた。なお、『新英和大辞典』第六版(2002)のratの項目に「裏切り者」「卑劣漢」「スパイ」「密告者」といった記述がある。また、ratに不衛生なイメージがあるのは、保菌動物であることによるものと思われる。

また、別の日に同じクラスでの授業中、和訳の練習問題において、“The grass is growing greener day by day.”という英文が出てきて、答え合わせの際、生徒B・Cとの間で次のようなやりとりがあった。

生徒B：(和訳の答え合わせで当てられて答えて)草が日ごとに緑になってきている。

生徒C：先生、「草が日に日に青々としてきている」じゃだめですか？

生徒B：え、青ってblueじゃないん？greenだから緑なんじゃないん？

教師：色の感覚は英語と日本語で違うことがあって、日本語の青は広い意味では緑も含むから、英語のgreenに当たるものを日本語では青と表現することがあるんだよ。³⁾ たとえば、「青葉」とか「青虫」とか「青汁」とかって言うでしょ？草木の様子を言うときには、「葉っぱが青々と茂っている」って言うことがあるから、「青々と」でも間違いではないし、むしろ、この場合は「青々と」の方が日本語としては自然かもね。⁴⁾

- 3) 日英の色彩感覚には違いがあることに気づかせるよい機会だと思い、このように述べた。なお、『広辞苑』第六版(2008)には、「古代日本語では、固有の色名としては、アカ・クロ・シロ・アオがあるのみで、それは明・暗・顕・漠を原義とする」とある。また、『日本国語大辞典』第二版(2001)には、「アヲの示す色相は広く、青・緑・紫、さらに黒・白・灰色も含んだ。古くは、シロ(顕) ↔ アヲ(漠)と対立し、ほのかな光の感覚を示し、「白雲・青雲」の対など無彩色(灰色)を表現するのは、そのためである。また、アカ(熟) ↔ アヲ(未熟)と対立し、未成熟状態を示す。名詞の上に付けて未熟・幼少を示すことがあるのは、若葉などの「色」を指すことからの転義ではなく、その状態自体をアヲで表現したものとも考えられる」とある。
- 4) ここでのgreenerは緑色の濃さが増すということなので、「緑になる」だと違和感がある。緑を使うのであれば「緑の濃さが増す」と表現するか、「青々」を使って緑の濃さについて言及する表現が適切ではないかと思われる。

これらのやりとりを通して、生徒たちは日英の発想や感覚の相違や類似に関心をもったようであった。そこで、後日改めて授業時間の一部を使ってそれらを扱ってみようと考え、生徒が関心を示した動物や色に関して、クイズを用いた教材「英語動物園へようこそ」(資料1参照)と「色々な表現クイズ」(資料2参照)を作成した。

2. 動物に関する語彙を用いてのクイズ

授業時間の一部を使って、動物に関する表現のクイズを行った。クイズを行うにあたり、生徒をグループに分け、各グループで答えを1つ挙げるグループ対抗クイズとした。3択クイズ形式のプリント「英語動物園へようこそ」（資料1）を配布した後、辞書は使用しないよう指示し、動物名については教師が訳語を与えた。クイズは、1問ずつ解説を加えながら進めた。以下は、クイズの答えと解説である。なお、各下線部は3択クイズにした部分である。

Q1. I have butterflies in my stomach.

答えは①。have butterflies in one's stomachは、緊張や不安でドキドキしたりそわそわしたりするという意味で使われる表現である。緊張や不安による動悸や落ち着かない様子を胃の中にチョウが飛んでいる様子にたとえる発想は日本語にはないものである。

Q2. He drinks like a fish.

答えは③。drink like a fishは、大酒を飲むという意味の表現である。これは、魚がパクパク口を開けながら泳いでいる様子が、大量に水を飲んでいるように見えるのと、drinkに酒を飲むという意味があることとあいまって、大酒を飲むことを指すようになったようである。

Q3. She is crying crocodile tears.

答えは②。crocodile tearsは、うその涙という意味である。これは、ワニが獲物をおびき寄せるために涙を流す、または獲物をむさぼりながら涙を流すという伝説から、偽善的な涙を流す、悲しくないのに泣くといったことを言うようになったようである。

Q4. The leopard cannot change its spots.

答えは③。これは、人の性格はなかなか変わらないものだという意味で、*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* 8th ed. (2010)には、“people cannot change their character, especially if they have a bad character”とあり、特に、悪い性格はなかなか変わらないという意味である。日本語では、三つ子の魂百までがこれに近いようである。また、この表現は、旧約聖書のエレミヤ書13章23節の「クシュ人は皮膚を 豹はまだらの皮を変ええようか。それなら、悪に馴らされたお前たちも 正しい者となりえよう。」に由来する。このように、英語の表現には、聖書に由来するものが数多く見られる。

Q5. It's raining cats and dogs.

答えは③。これは、どしゃぶりの雨が降っているという意味である。なぜどしゃぶりにcats and dogsという表現が使われるかには、いくつかの説があるようである。The Phrase Finderは、fanciful proposed derivationsとして、次の4つの説を挙げている。①猫は雨を降らし、犬は風を起こすという北欧の神話に由来する。②大雨で猫や犬が屋根から滑り落ちたことに由来する。③古フランス語で滝を意味するcatadoupeに由来する。④大雨によって溺れて死んだ猫や犬などの動物が、空から降ってきたかのように通りに残されていたことに由来する。また、Wordorigins.orgでは、どしゃぶりの雨の音が猫と犬のけんかの際の騒々しい様子にたとえられたことに由来するという説も述べられている。しかし、いずれの説も検証されたものではない。

Q6. The building is a white elephant.

答えは①。white elephantとは、金と手間のかかる厄介なものを意味する表現である。これは、昔、タイの王様が、気に入らない家来に白いゾウを贈ったことに由来するようである。タイでは白いゾウは神聖なものなので粗末に扱うことができず、飼うのにお金と手間ひまがかかり、贈られた側は身を滅ぼすということである。

Q7. Let's play chicken.

答えは②。chickenは臆病者という意味で使われることがあり、蔑みのニュアンスを含む言葉である。chickenが臆病者を意味するのは、寒いときや何か恐怖を感じたときに立つ鳥肌が、ニワトリの羽根をむしったときのニワトリの肌に似ていることや、ニワトリが周囲に気を配りキョロキョロしている様子に由来するようである。また、play chickenで肝試しをする、度胸試しをするという意味になる。

Q8. dog-ear

答えは②。これは、本のページの隅を折った部分を意味する言葉で、犬の耳の形に由来するものである。日本語には、dog-earが表すものを一言で表す語がないように思われる。また、犬は慣用表現やことわざによく出てくるが、英語ではlead a dog's life (みじめな生活を送る) やgo to the dogs (落ちぶれる)、日本語では犬死になど、あまりいい表現に使われていないようである。

Q9. smell a rat

答えは①。以前の授業でふれた表現だったので、復習として出してみた。ratには、裏切り者、卑劣漢、スパイ、密告者という意味がある。また、smell a ratで胡散臭い、怪しいという意味になる。

Q10. There is a frog in his throat.

答えは③。have a frog in one's throat で、のどを痛めてしわがれ声である、声がかれているという意味になる。風邪をひいて咳をするときののどのガラガラ状態や、叫び過ぎて声がかれた状態を表すときなどに使われる表現である。人の声がしわがれてガラガラな状態を、のどにカエルがいる様子にたとえる発想は、日本語にはないように思われる。

以上のような解説を加えながらクイズを進めた。クイズを進める際、生徒からの積極的な発言や質問もあった。たとえば、Q3では、生徒から「アリゲーターもワニじゃないっけ？」という発言があったので、日本語ではひとくりにワニと言えるが、英語ではワニの種類の違いによってcrocodileまたはalligatorという名称があることを説明し、子どもの別れ際の言葉遊びとして、See you later, alligator. / After a while, crocodile. (laterとalligator、whileとcrocodileがそれぞれ韻をふんでいる) も一緒に紹介した。また、Q9では、生徒から「mouseもネズミだけど、ratと何が違うんですか？」という質問があったので、mouseはハツカネズミなどの小型のもので、ratはドブネズミなどの大型のものを指すことや、mouseには、内気な人、臆病な人、かわいい女の子という意味もあること、ratの方がイメージは悪いことを説明した。このように、生徒からは興味をもって取り組んでいる様子が見えかけた。

クイズで扱った表現の他にも動物に関する表現は数多くある。動物のイメージには日英で異なるものも多くあり、異文化理解の一つの手段になりうる。また、ユニークな表現も多くあり、日英の発想の違いを味わう一つの手段にもなりうる。

3. 色に関する語彙を用いてのクイズ

授業時間の一部を使って、色に関する表現のクイズを行った。動物に関する表現のクイズのときと同様に、クイズを行うにあたり、生徒をグループに分け、各グループで答えを1つ挙げるグループ対抗クイズとした。3択クイズ形式のプリント「色々な表現クイズ」(資料2)を配布した後、辞書は使用しないよう指示し、1問ずつ解説を加えながら進めた。以下は、クイズの答えと解説である。なお、クイズでは、英文の意味を3択クイズにして尋ねた。

Q1. He was caught red-handed.

答えは②。red-handedは、現行犯でという意味である。redは、血、情熱、怒りなどのイメージのある色である。手が血まみれになった様子を想像すると、現行犯でという意味が思い浮かぶのではないだろうか。なお、red-handedは、血の流れる犯罪の現行犯の場合だけでなく、血が流れない犯罪の現行犯にも使われる。

Q2. I was tickled pink at your story.

答えは①。be tickled pinkは、大喜びするという意味である。pinkには極致、極みという意味があり、喜びの極みを表している。また、英語のpinkは、健康、活力、若さ、純真、新鮮さをイメージさせる色であり、日本語のピンクのような猥褻なイメージはない。また、英語のpinkはナデシコという花の名前でもある。日本語ではピンクを桃色とも言い、桃の花の色である。pinkも桃色も花の色に由来している。

Q3. She has a green thumb.

答えは③。have a green thumbは、植物を育てる才能がある、園芸の才能があるという意味である。thumbの部分にはfingersが使われる場合もある。指が緑になるくらいに植物をいじっているのを想像すると、園芸の才能という意味が思い浮かぶのではないだろうか。英語のgreenが植物をイメージさせるのは、日本語の緑が植物をイメージさせるのと類似している。なお、green thumbには、お金儲けの才能という意味もあるようである。

Q4. He is green as grass.

答えは③。この場合のgreenは、未熟を意味する。文の意味を「彼は未熟だ」としてもよかったが、色に焦点を当てるため、あえて青二才とした。日本語では、未熟な様子を述べるのに青を使う。青二才とは、若くて経験が乏しい男という意味で、人に対して使うとあざけりのニュアンスを含むので注意が必要である。英語のgreenや日本語の青における未熟という意味は、果実が熟していないときの色からきていると思われる。日本語の青は広い意味では緑も含むため、青で表現されるが、未熟という意味でのgreenも青も、元となった色は同じような色であると思われる。

Q5. I got taken over by the green-eyed monster completely.

答えは②。日本語の緑には嫉妬のイメージはないが、英語のgreenは嫉妬をイメージさせる色であり、green-eyed monsterとは嫉妬のことである。これは、ShakespeareのOthelloの3幕3場での“O beware my Lord, of jealousy; It is the green-eyed monster, which doth mocke; The meate it feedes on: (お気をつけなさい、将軍、嫉妬というやつに。こいつは緑の目をした怪物で、人の心を餌食とし、それをもてあそぶのです。)”というIagoのセリフからきている。英語の表現には、Shakespeareの作品に由来するものも多い。

Q6. She is a blue blood.

答えは①。blue bloodには、貴族の生まれ、名門の出という意味がある。blue bloodは、スペイン語のsangre azulが元になっている。昔、スペインはムーア人によって支配されていて、長い支配の間に混血が進む中、スペイン貴族は色が白く、ムーア人よりも静脈が青っぽくはっきりと見えただため、スペイン貴族はそれを純血であることの印としたことに由来するようである。

Q7. I feel blue.

答えは③。この場合のblueは、憂鬱を意味している。最近では、日本語でも気分が落ち込んだときに、「ブルーな気分」などのように使われる。『日本国語大辞典』第二版(2001)や『広辞苑』第六版(2008)を見る限りでは、青の項目には憂鬱という意味は出てないが、ブルーの項目には、英語のblueの影響からか、憂鬱という意味が出ており、青とカタカナ語のブルーで意味の住み分けがなされているようである。

Q8. Don't be yellow.

答えは②。日本語の黄色には、明るくて快活なイメージがあるが、英語のyellowには、臆病、背信、嫉妬、不信、卑怯といったイメージがある。yellowは、キリストを裏切ったユダの衣服の色だったことから、あまりいいイメージをもたれていない色のようなものである。ここでのyellowは、臆病という意味で使われている。

Q9. He turned purple with rage.

答えは①。日本語では、「真っ赤になって怒る」のように、怒りは赤のイメージで表されることが多い。英語でもredを使って怒りを表すことがあるが、purpleはredより激しい怒りを表すようである。また、purpleの部分にはblackやwhiteが使われることもあり、いずれもredより激しい怒りを表すが、特にwhiteはかなりの激怒を表すようである。

Q10. He is the black sheep of the family.

答えは③。black sheepは厄介者という意味であり、There is a black sheep in every flock. (どんな集団にも一人は厄介者がいるものだ。) ということわざに由来する。black sheepは悪い意味の表現なので、人に対して実際には使わない方がよいであろう。blackはマイナスイメージが強く、不吉、悪、死、悲哀、暗闇、喪などを表し、black listやblack marketなどの表現もある。日本語でも黒は、負けを意味する黒星、有罪であることを黒と表現する、陰で指図する者を黒幕と言うなど、マイナスイメージの強い色である。

Q11. She told a white lie to him.

答えは②。whiteには、純潔、真実、潔白、純粋、公正といったイメージがあり、white lieは、悪意のない嘘を意味する。また、悪意のある嘘はblack lieと表現される。日本語で真っ赤な嘘という表現はあるが、嘘を白と黒という色によって善悪に分けて考える発想は日本語とは異なっている。また、日本語では、驚きや信じられない気持ちなどを表して、「嘘でしょ？」や「うっそー！」のように、日常会話の中で嘘という言葉が気軽な感じで使われるが、英語でThat must be a lie. やYou're a liar!などと言うと、強い非難を表すことになるので注意が必要である。

Q12. She has a heart of gold.

答えは②。a heart of goldで、美しい心を意味する。goldには、喜び、幸福、美しい、高貴、純真、すばらしいといったイメージがある。また、形容詞形のgoldenを用いて、golden opportunity (絶好の機会)、golden days (全盛期) などの表現もある。

以上のような解説を加えながらクイズを進めた。クイズを進める際、生徒からの積極的な質問もあった。たとえば、Q2では、英語のpinkには日本語のピンクのような猥褻なイメージはないことを説明した際、生徒から「英語ではpinkじゃなくて何色なんですか？」という質問があったので、猥褻なイメージには、英語ではblueが使われ、blue joke (きわどい冗談)、blue film (ポルノ映画) のように使われることを説明した。また、Q12では、「銀色はどういうイメージなんですか？」という質問があったので、英語のsilverには、雄弁というイメージがあり、silver-tongue (雄弁) やSpeech is silver, silence is golden. (雄弁は銀、沈黙は金) のような表現があることや、カタカナ語のシルバーは、「シルバーシート」のように「高齢者」の意味で使われるが、英語のsilverにはそのような意味はないことを説明した。このように、生徒からは、興味をもって学習している様子が見えてきた。

クイズで扱った表現の他にも色に関する表現は数多くある。色がもつイメージや色彩感覚には、日英で相違点や類似点があり、それらに目を向けることで、日英の発想や文化的側面について学習するきっかけになりうる。

おわりに

本稿で紹介した実践は、生徒から出た疑問を元に、動物や色に関する語彙を通して、日英の発想や文化的側面に焦点を当ててみたものであった。

授業の中で出てくる生徒の素朴な疑問は、生徒の興味・関心を広げたり、さらに掘り下げたりするきっかけとなるものである。それらをいかにすくい上げて生徒の学びを広げ深めるかは、教師にかかっているといえる。また、今回のような実践においては、英語が得意でない生徒も英語を楽しみながら学ぶことができ、英語、さらには言葉に対する興味・関心を刺激するのではないかと思われる。

言語を学ぶことというのは、言語そのものだけでなく、それにまつわる文化的・社会的な背景、価値観、ものの見方などを学ぶということも含まれていると考えられる。さらに、外国語を学ぶことは、母語について考えたり気づいたりするよいきっかけにもなると思われる。生徒が日英の発想の類似点に気づけば、英語をより身近に感じるかもしれないし、相違点は、自分の文化における物事に対する認識が絶対的なものではないことに気づかせてくれるだろう。今後も、英語の授業を通して、言葉に対する生徒の興味・関心を深めていけるよう努めていきたい。

参考文献

- 安藤邦男 (2008) 『テーマ別英語ことわざ辞典』 東京：東京堂出版。
イングリッシュ研究会編 (2000) 『ダイソー文庫シリーズ④ 雑 (That's) ・英語』 広島：大創産業。
奥津文夫 (編著) (2002) 『日英比較・英単語発想事典』 東京：三修社。
共同訳聖書実行委員会 (1996) 『聖書：新共同訳』 東京：日本聖書協会。
林洋和 (2002) 『英語の語彙指導：理論と実践の統合をめざして』 広島：溪水社。
パキラハウス (2000) 『雑学イングリッシュ』 東京：三笠書房。
文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂。
山田雅重 (1997) 『日本語の発想・英語の発想』 東京：丸善。
Wells, S. and G. Taylor eds. (1986) *William Shakespeare: The Complete Works*. Original-spelling ed. Oxford: Clarendon Press.

参考辞書

- 『広辞苑』 第六版 (2008) 東京：岩波書店。
『新英和大辞典』 第六版 (2002) 東京：研究社。
『日本国語大辞典』 第二版 (2001) 東京：小学館。
Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English. 8th ed. (2010) Oxford: Oxford University Press.

参考ホームページ

- The Phrase Finder
<http://www.phrases.org.uk/meanings/raining%20cats%20and%20dogs.html>
Wordorigins.org
http://www.wordorigins.org/index.php/site/comments/rain_cats_and_dogs/
WORLD WIDE WORDS
<http://www.worldwidewords.org/qa/qa-blul.htm>



英語動物園へようこそ

- Q 1.** I have () in my stomach. の()にある語を入れると、「私は緊張でドキドキしている。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① butterflies ② mice ③ turtles
- Q 2.** He drinks like a (). の()にある語を入れると、「彼は大酒飲みだ。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① monkey ② hippopotamus ③ fish
- Q 3.** She is crying () tears. の()にある語を入れると、「彼女はウソ泣きをしている。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① bear ② crocodile ③ sparrow
- Q 4.** The () cannot change its spots. の()にある語を入れると、「三つ子の魂百まで。[ことわざ]」という意味になる。()に入るのはどれ?
① panda ② ladybug ③ leopard
- Q 5.** It's raining cats and dogs. の意味はどれ?
① しとしとと雨が降っている ② にわか雨が降っている ③ どしゃぶりの雨が降っている
- Q 6.** The building is a white (). の()にある語を入れると、「その建物は無用の長物だ。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① elephant ② rabbit ③ tiger
- Q 7.** Let's play (). の()にある語を入れると、「肝試しをしよう。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① pig ② chicken ③ cow
- Q 8.** dog-ear って何のこと?
① 長くてゆれるイヤリング ② 本のページの隅折れ ③ 福耳
- Q 9.** smell a () の()にある語を入れると、「怪しいと思う、うさんくさいと思う」という意味になる。()に入るのはどれ?
① rat ② cat ③ swallow
- Q 10.** There is a () in his throat. の()にある語を入れると、「彼はのどを痛めてしわがれ声だ。」という意味になる。()に入るのはどれ?
① grasshopper ② duck ③ frog

★ 色々な表現クイズ ★

☆次の各英文の意味は①～③のうちのどれでしょう？

Q1. He was caught **red**-handed.

- ①彼はしもやけになった。 ②彼は現行犯でつかまった。 ③彼はやけどをした。

Q2. I was tickled **pink** at your story.

- ①私はあなたの話に大喜びした。 ②私はあなたの話にがっかりした。 ③私はあなたの話に驚いた。

Q3. She has a **green** thumb.

- ①彼女は親指に青いあざができています。 ②彼女は信頼できる。 ③彼女は植物を育てるのがうまい。

Q4. He is **green** as grass.

- ①彼はさわやかな青年だ。 ②彼は成熟した大人だ。 ③彼は全くの青二才だ。

Q5. I got taken over by the **green**-eyed monster completely.

- ①闘争心がふつつつとわき上がった。 ②嫉妬心がメラメラと燃え上がった。
③向上心をもって一生懸命に取り組んだ。

Q6. She is a **blue** blood.

- ①彼女は名門の出のお嬢様だ。 ②彼女は冷え性だ。 ③彼女は変わり者だ。

Q7. I feel **blue**.

- ①気分は上々だ。 ②寒気がする。 ③憂鬱な気分だ。

Q8. Don't be **yellow**.

- ①怒るなよ。 ②びびるなよ。 ③すねるなよ。

Q9. He turned **purple** with rage.

- ①彼は真っ赤になって怒った。 ②彼は気持ち悪くて青ざめた。
③彼は緊張で頭の中が真っ白になった。

Q10. He is the **black** sheep of the family.

- ①彼は一家の大黒柱だ。 ②彼は一家の跡取り息子だ。 ③彼は一家の厄介者だ。

Q11. She told a **white** lie to him.

- ①彼女は彼におおげさなウソを言った。 ②彼女は彼に罪のないウソを言った。
③彼女は彼に悪意のあるウソを言った。

Q12. She has a heart of **gold**.

- ①彼女は見栄っ張りだ。 ②彼女は美しい心をもっている。 ③彼女は固い意志をもっている。